

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692600279		
法人名	医療法人 育成会		
事業所名	ぐるーぶほーむ 森の家 桃		
所在地	京都府福知山市夜久野町直見4番地の7		
自己評価作成日	令和3年12月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2692600279-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和4年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で家事全般(調理、洗濯、掃除など)を入居者と一緒に行うことで、やりがい、役割を持ち生き生きと生活ができるように努めている。家と同じように畑で農作物を植えたり、収穫したり、タネノコ掘りや梅干しを漬けたりと季節を感じながら過ごせるように努めている。季節の食材を使用し一緒に調理やおやつを作ったり、季節を感じるようなレクリエーションを取り入れたり季節の理解ができるような環境を作っている。管理栄養士を配置し、入居者の状態に合わせて食事が提供できるように努めている。コロナウイルス感染予防のため地域の方との交流はしていないが、駐車場を魚屋やスーパーの移動販売に場所提供をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

廃校になった市立小学校のグラウンド跡地に建てられた、自然豊かな山あいにある開設2年目の2ユニットのグループホームです。中庭を囲むように、居室・リビング・スタッフルームが配置され、開放感のある空間になっています。コロナ禍での開設で、様々な制限がある中でも、地域の方からの自家栽培のイチゴの差入れがあったり、事業所駐車場を移動販売に提供したりするなど、地域の一員としての運営ができています。事業所には常勤の管理栄養士がおり、日常的な食事に加え各種イベント食やおやつにも力を入れています。カニ鍋やすき焼など、一般的にグループホームでは提供し辛い食事の提供も行っていきます。また、菜園では季節の野菜を栽培しており、ミトマト・ナス・きゅうり・カボチャなどを入居者と一緒に育て、食材としても活用しています。さらには梅干しや漬物も手作りするなど、まさに家庭的なグループホームと言えます。母体が医療法人で、協力医でもあることから健康管理についても不安なく過ごせます。開設2年目ということもあり、課題はまだまだ山積していますが、地域密着型サービスを体現する事業所になると期待できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につきやすいようにスタッフルームに理念を掲示し、入居者の思いを聴きながら日常生活の中でできることを一緒にしているように努めている。	法人理念と共に、開設当初に職員と一緒に考えた事業所理念を玄関先・スタッフルームに掲示し、来訪者や職員に周知しています。毎月実施される全体会議の中でも、折に触れ管理者から理念について話をすることで理念の浸透に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため接触を避けている。感染者数が減少したときなどは散歩をする中であいさつ、短い会話をして交流をしている。施設駐車場を移動スーパー、魚の販売業者に提供し、地域の方が集える場所としている。昨年に続いて今年も近所の方からイチゴの提供があった。	コロナ禍の影響により、地藏盆や神社のお祭り、地域の避難訓練なども中止を余儀なくされ、地域との交流も滞りがちになっています。そんな中でも、事業所の駐車場をスーパーや魚屋の移動販売に提供しており、地域の方が立ち寄れる場になっています。昨年に引き続き、地域の方からイチゴの提供もありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のために地域の方に講習会等は実施していない。所属する地区の区長に広報紙を発行し、暮らしの状況が理解してもらえるように対応している。また、施設周囲の草引きや日光浴の姿をフェンス越しに見ておられ、職員の対応を近所の方は見守っておられる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため運営推進会議は開催していない。2ヶ月に1回文書で状況報告を行い、意見をサービスに反映するようにしている。	コロナ禍での開設により、対面での運営推進会議の開催は行えていませんが、隔月での書面開催(状況報告書)を作成し、関係者へ配布しています。運営推進委員を構成している役所担当者・地域包括・民生委員・家族・区長・地域代表・有識者からは、書面開催時に意見やアドバイスを書面でいただき、運営に活かされていることが確認できました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者を運営推進会議の構成員として意見交換できるようにしている。気づいたことについては電話等での情報交換、指導を受けている。	役所担当者が運営推進委員になっていることから、書面開催時に運営に関する意見やアドバイス、また参考資料提供があり、良好な関係が築けています。事業者連絡会や地域ケア会議も実施されていないことから、オンラインでの開催が待たれるところです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	11月24日身体拘束の研修実施。3月18日高齢者虐待と併せて身体拘束の研修予定。入職者についてはオリエンテーション時に実施。 現状、身体拘束は0件。身体拘束の委員会は3ヶ月に1回実施。	身体拘束廃止委員会は、「ヒヤリハット・事故委員会」の中で実施され、3ヶ月毎に開催されています。また年間研修計画に基づき、年2回の研修が行われ、参加者は「研修ノート」を提出し、理解を深めています。更に、毎年実施される人事評価面談の中で「自己点検シート」や「一人ひとりの人としての尊重チェックリスト」で虐待や身体拘束の見識をチェックしています。	昨年度の評価で確認できた、身体拘束廃止に関する指針やマニュアルの確認ができませんでした。また、委員会の構成や役割に齟齬があることから、今一度整理することが望まれます。また、研修計画についても、法定研修・内部研修を整理し、一覧化することが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	11月24日高齢者虐待と併せて実施。3月に施設内研修を予定。入職者についてはオリエンテーション時に実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施。資料をマニュアルに綴じ、必要時に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し、同意を得ている。契約書と重要事項説明書の変更に対し説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見を聞き対応するように努めている。入居者には12月、家族には9月アンケートを実施し、サービス内容を検討し、対応した。 家族の代表2名を運営推進員の構成員として意見や家族の思いを確認している。	今年度から家族アンケートを実施し、意見や要望を聴き取り、運営に活かしています。また入居者アンケートも実施し、朝食の種類や日常の過ごし方・得手不得手を職員が聴き取り、日頃のケアに活かされています。運営推進委員の中に家族が2名いることから、忌憚のない意見も出ています。年3回発行していた「森の家通信」も、要望により年4回に増やした例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	11月に職員の目標、意見要望を書面にて確認し、入居者・家族のアンケート結果を踏まえてサービスや業務改善につなげるようにしている。	管理者は日常的な職員とのコミュニケーションの中で、意見を聴き取るようにしています。ここで出た意見や、人事面談での意見などはユニットリーダー会議の中で必要に応じて議論・検討され、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11月に職員の自己評価と要望、希望などを書面にて確認し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら指導を行っている。施設内研修を計画的に実施。施設外研修は希望を確認しながら、施設側からも声掛けしながら参加している。姿勢についてリハビリ支援センター担当者訪問調整し学習会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月15日リハビリ支援センターの訪問調整し、姿勢についての指導を受ける。オンラインで老人保健施設と研修会を実施。7月には感染防護研修会を他施設も参加で開催。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の訴えを傾聴しながらサービスケアに努めている。入居申し込み相談時に本人も含めて施設見学をすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に傾聴し、その後の対応の仕方を相談している。入所時にはサービス計画の説明をしながら再度、希望の確認をしてくる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況を確認し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、洗濯干し等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大予防のためガラス越しの面会を継続している。家族宛に手紙やはがきを書いている入居者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去に住んでいた場所や勤務先、学生時代、関りを持った人の話をしたりしている。新型コロナウイルス感染拡大予防のため外出は制限しているが、4月にたけのこ掘りに数名外出を実施。	入居面接の際に聴き取った生活歴などを、日頃の会話の中に織り交ぜたり、感染対策を講じた上で、近隣への散歩や、昔の勤務先までドライブに行ったりしています。春には数名の入居者と共にタケノコ掘りへ出かけました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同でレクリエーション、できる範囲での家事を分担して行えるように声掛けし支援している。毎日の体操は体調を考慮しながらできるだけ全員で行えるように支援している。多人数で行えるレクリエーションや、普段使用するゴミ箱作りなど取り入れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所、病院に入院された場合、必要に応じ様子を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けをしながら実施している。畑や散歩、家事等入居者が行いたいと思うことを声掛けしている。	居室担当者が毎月実施するモニタリングのコメントや、日頃の関りで得た情報を経過記録に記載することで、職員間での情報共有が行われています。また、入居者アンケートを採ることで、一人ひとりの希望や意向の確認が行われています。掃除や洗濯物干しなど、入居者の希望を聞きながら、一緒に行っています。	日頃の関りやモニタリングの際に確認できた情報などは、ケアの質向上に不可欠な情報であると認識し、一人ひとりにフォーカスした情報の一元化をされてはいいかがでしょうか。センター方式(C-1-2)など参考にしてみてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話の中で情報を得て、サービスにつなげられるように努めている。入居前には家族からわかる範囲で聴取するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身の状態を把握しながら一日の過ごし方をケアできるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師を含め、カンファレンスを行い関係者と話しあいながら計画作成をしている。計画をもとに家族に意見を確認している。	月1~2回実施される全体会議の中でカンファレンスを行い、状態変化があった際はその都度、基本的には6ヶ月毎に計画の見直しを検討しています。居室担当者による毎月のモニタリング、ADL・日常行動モニタリングの情報を計画作成担当者が集約し、計画の見直しに活かされています。サービス担当者会議には、医師(理事長)、管理栄養士も適宜参加しています。介護計画作成は、具体的なサービス内容となるよう若干の工夫が必要です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、24時間シートを活用し情報共有できるように努めている。申し送りやカンファレンスを活用し実践できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師に訪問して散髪をしてもらっている。市の広報紙や学園だよりなどを提供してもらっている。夏には花火大会(地区有志での)を施設内から楽しんで見ておられた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長がかかりつけ医として往診にて対応し、変化があった時には連絡している。専門医の受診が必要な時には、家族の意向も確認しながら調整している。	母体が医療法人で、理事長でもある医師がかかりつけ医として対応をし、十分な健康管理が行われています。専門医受診は家族協力が必要ですが、日頃の様子を書面にして受診できるよう支援しています。入院の際には職員が付き添うようになっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1名常勤で勤務。状態変化時に勤務外の時には電話で情報交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に介護サマリーを準備し情報提供をしている。入院期間中には病院関係者と情報交換を行い対応している。理事長が医師であり、病院医師との情報交換により、治療経過がわかりスムーズな対応ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に伴うプロセス等作成し、カンファレンスや申し送りで情報共有し、家族に状態説明を行い方向性を相談するように努めている。開所2年目で事業所でできることを考えて行く必要はある。	開設2年目となりますが、現在のところ看取りの実績はありません。「看取りに関する指針」「重度化した場合の対応に関する指針」を作成し、入居時には同意を得ています。今年度から看取り研修を計画に定め実施をしています。「状態変化に伴うプロセスのフローチャート」「経口摂取が困難になった時の意思決定フローチャート」を作成し、家族説明を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修は未実施。バイタル測定は毎日の業務の中で対応できるようにしている。急変時のマニュアルは作成している。状態変化時に実践の中で対応の仕方を説明、指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。避難場所は隣接した敷地内にあり、3月には避難経路の確認を含めて訓練を実施する予定。市の一斉訓練は新型コロナウイルス感染予防のため中止になっている。感染状況を見ながら、地域の消防団との協力のもと訓練を検討する。	消防署の協力により、消火・通報・避難の訓練が実施されています。また、非常災害時マニュアルも作成し、スタッフルームには緊急連絡網も掲示しています。さらに、地域の消防団との訓練も予定しています。備蓄の飲食品は20名/3日分を用意し、ランタンやカセットコンロも備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの姿勢、声掛けの場所や声のトーン等配慮するように心がけている。11月の尊厳についてのアンケートを実施し、対応の仕方を見直す機会を作った。	職員向けに尊厳に関するアンケートを実施するとともに、接遇研修の中でプライバシー保護にも触れています。「恥ずかしい思いをさせない」「心地よく過ごしてもらう」ということに配慮した声掛けになるよう、心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声掛けをして本人の希望を確認しながら対応するように努めている。誕生会のケーキは選択できるように工夫している。12月に聞き取り調査を実施。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	話をしながら対応している。仕事をしたい入居者があり、作業を分担できるように工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、整髪については声掛けで実施できるように努めている。施設からのクリスマスプレゼントを帽子にして楽しんでもらった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた材料を使用し楽しみながら食事をしてもらっている。毎日の生活の中で調理、食事に準備、片付けを入居者とスタッフは一緒に行っている。調理に携わることで手先を動かし記憶をたどりながら昔の日常に近い体験ができるよう支援している。	朝食はパンとスープ、昼夕食は手作りでの食事提供になっています。日常的な献立や行事食、お正月等の特別食メニューは、職員や入居者の希望を聴きながら、常勤の管理栄養士が作成し、塩分等に配慮したおいしい食事の提供になっています。また、おやつにも工夫がされており、手作りプリンに入居者がフルーツを盛り付けるなど、食の楽しみを演出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化と摂取量を栄養状態の指標として栄養管理に努めている。 食事摂取量が減った、食べられなくなった入居者に対しては管理栄養士と相談しながら栄養補助食品を取り入れたり、食事形態の工夫をしたりしている。1日の水分量を1000mlを目標に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態に、状況に応じて毎食後に声掛け、誘導、ケアを行っている。義歯の洗浄も毎回、洗浄してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状態に応じてトイレ誘導、見守り、介助を行っている。	夜間のみ、おむつ使用の方はおられますが、日中のおむつ使用はおられず、紙パンツやパッドでの対応とし、トイレ誘導にて排泄を促しています。誘導時は、一人ひとりの排泄サインを見逃さず、特性に合わせて声掛けを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の体調に合わせて体操、水分摂取量の調整や内服により排便コントロールができるように努めている。食事は、食物繊維を意識し野菜を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、入浴日を決めて対応している。声掛けして入浴を嫌がられた場合は、時間を変えたり、次の日に声掛けしたりして対応している。入居者の状態に合わせてリフト浴を活用している。	毎週、月・木を入浴日とし、週2回の入浴ができるようにしていますが、火・金を予備日として、断られた際や体調を見ながら臨機応変に対応しています。可動式のリフトが各ユニットにあり、座位に不安のある方なども安心して入浴できるよう支援しています。	入浴はリラックスできるとともに、職員との会話により、ケアに活かせる新たな情報を得られる場でもあります。季節湯(柚や菖蒲)、また入浴剤などにより、入浴を楽しんでいただける工夫をされてはいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に応じて対応している。夜間の睡眠の状況を観察して、就寝時間を調整できるように声かけしている。19時頃に温かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は入居者の薬を入れているポーチに入れて作用について理解できるようにしている。薬の変更があった時には連絡ノートに活用し、注意が必要なことについてはコメントを記入し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて楽しみながら、役割を持てるように声掛けしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため外出行事が出来ていない。感染状況を見ながら、声掛けしながら散歩、畑や草引きなど外に出れるように対応している。4月はたけのこ掘り、11月ひまわり畑に外出。	コロナ禍の影響により、外出機会が少なくなっていますが、感染状況を見ながら、11月頃に咲くひまわり畑に出かけたり、車外に出ないドライブ外出をしたりしています。また、敷地内での日光浴や近隣の散歩、春にはタケノコ掘りにも出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は家族管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族宛に書かれたハガキは渡している。家族から電話を掛けられる時に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に手作りのカレンダーや季節の飾りものを作成し飾るようにしている。いすを居間や多目的ホールに置き自由にくつろぎながらに座れる環境を提供できるように工夫している。	2つのユニットをつなぐ多目的ホールには、入居者と一緒に作った干支や草木の飾りつけを行い、ユニットのリビングには、手作りカレンダーや季節の作品を飾り付けています。レクリエーション時や日頃の様子の写真も掲示し、居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き一人でくつろげるよう工夫している。食堂のテーブルの配置、食席は状況に合わせて工夫するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物をもってきてもらえるよう説明し、タンスを持参されている方もある。物品の配置については本人と話をしながら整理をするようにしている。入居前に犬を飼っておられた方は家族が犬のぬいぐるみ持参され、それを抱えて寝られている。	コロナ禍での開設で、自宅訪問もできない中、家族協力により、馴染みの家具を持ち込まれている方もいます。誕生日には、それまでに撮りためた写真をプレゼントし、居室に飾っています。入居前の趣味であった刺繍や張り子、お手玉を飾られる方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室に手すりを設置している。トイレは分かりやすいように表示している。歩行車、杖等は使用しやすいように設置場所を定着するように工夫している。食事をする前には姿勢修正が出来るように必要な方には座面の工夫し、足台を使用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692600279		
法人名	医療法人 育成会		
事業所名	ぐる一ぷほ一む 森の家 桜		
所在地	京都府福知山市夜久野町直見4番地の7		
自己評価作成日	令和3年12月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2692600279-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21
訪問調査日	令和4年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日の生活の中で一人一人のペースを大切に、やりがい、役割を持ち生き生きと生活がでるように努めている。敷地内の散歩や外気浴を行い、ストレスを軽減できるように努めている。家と同じように畑で農作物を植えたり、収穫したり、タケノコ堀りや梅干しを漬けたりと季節を感じながら過ごせるように努めている。季節の食材を使用し一緒に調理やおやつを作ったり、季節を感じるようなレクリエーションを取り入れたりと季節の理解ができるような環境を作っている。管理栄養士を配置し、入居者の状態に合わせて食事が提供できるように努めている。コロナウイルス感染予防のため地域の方との交流はしていないが、駐車場を魚屋やスーパーの移動販売に場所提供をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ユニット桃に同じ</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につきやすいようにスタッフルームに理念を掲示し、入居者の思いを聴きながら日常生活の中でできることを一緒にしているように努めている。	ユニット桃に同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため接触を避けている。感染者数が減少したときなどは散歩をする中であいさつ、短い会話をして交流をしている。施設駐車場を移動スーパー、魚の販売業者に提供し、地域の方が集える場所としている。昨年に続いて今年も近所の方からイチゴの提供があった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のために地域の方に講習会等は実施していない。所属する地区の区長に広報紙を発行し、暮らしの状況が理解してもらえるように対応している。また、施設周囲の草引きや日光浴の姿をフェンス越しに見ておられ、職員の対応を近所の方は見守っておられる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため運営推進会議は開催していない。2ヶ月に1回文書で状況報告を行い、意見をサービスに反映するようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者を運営推進会議の構成員として意見交換できるようにしている。気づいたことについては電話等での情報交換、指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	11月24日身体拘束の研修実施。3月18日高齢者虐待と併せて身体拘束の研修予定。入職者についてはオリエンテーション時に実施。 現状、身体拘束は0件。身体拘束の委員会は3ヶ月に1回実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	11月24日高齢者虐待と併せて実施。3月に施設内研修を予定。入職者についてはオリエンテーション時に実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施。資料をマニュアルに綴じ、必要時に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明し、同意を得ている。契約書と重要事項説明書の変更に対し説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見を聞き対応するように努めている。入居者には12月、家族には9月アンケートを実施し、サービス内容を検討し、対応した。 家族の代表2名を運営推進員の構成員として意見や家族の思いを確認している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	11月に職員の目標、意見要望を書面にて確認し、入居者・家族のアンケート結果を踏まえてサービスや業務改善につなげるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	11月に職員の自己評価と要望、希望などを書面にて確認し対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら指導を行っている。施設内研修を計画的に実施。施設外研修は希望を確認しながら、施設側からも声掛けしながら参加している。姿勢についてリハビリ支援センター担当者訪問調整し学習会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	11月15日リハビリ支援センターの訪問調整し、姿勢についての指導を受ける。 オンラインで老人保健施設と研修会を実施。 7月には感染防護研修会を他施設も参加で開催。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の訴えを傾聴しながらサービスケアに努めている。入居申し込み相談時に本人も含めて施設見学をすすめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に傾聴し、その後の対応の仕方を相談している。入所時にはサービス計画の説明をしながら再度、希望の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況を確認し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、洗濯干し等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大予防のためガラス越しの面会を継続している。家族宛に手紙やはがきを書いてもらっている入居者もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去に住んでいた場所や勤務先、学生時代、関りを持った人の話をしたりしている。新型コロナウイルス感染拡大予防のため外出は制限しているが、4月にたけのこ掘りに数名外出を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同でレクリエーション、できる範囲での家事を分担して行えるように声掛けし支援している。毎日の体操は体調を考慮しながらできるだけ全員で行えるように支援している。多人数で行えるレクリエーションや、普段使用するゴミ箱作りなど取り入れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所、病院に入院された場合、必要に応じ様子を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けをしながら実施している。畑や散歩、家事等入居者が行いたいと思うことを声掛けしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話の中で情報を得て、サービスにつなげられるように努めている。入居前には家族からわかる範囲で聴取するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身の状態を把握しながら一日の過ごし方をケアできるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師を含め、カンファレンスを行い関係者と話しあいながら計画作成をしている。計画をもとに家族に意見を確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、24時間シートを活用し情報共有できるように努めている。申し送りやカンファレンスを活用し実践できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師に訪問して散髪をしてもらっている。市の広報紙や学園だよりなどを提供してもらっている。夏には花火大会(地区有志での)を施設内から楽しんで見ておられた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長がかかりつけ医として往診にて対応し、変化があった時には連絡している。専門医の受診が必要な時には、家族の意向も確認しながら調整している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1名常勤で勤務。状態変化時に勤務外の時には電話で情報交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期に介護サマリーを準備し情報提供をしている。入院期間中には病院関係者と情報交換を行い対応している。理事長が医師であり、病院医師との情報交換により、治療経過がわかりスムーズな対応ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に伴うプロセス等作成し、カンファレンスや申し送りで情報共有し、家族に状態説明を行い方向性を相談するように努めている。開所2年目で事業所のできることを考えて行く必要はある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修は未実施。バイタル測定は毎日の業務の中で対応できるようにしている。急変時のマニュアルは作成している。状態変化時に実践の中で対応の仕方を説明、指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。避難場所は隣接した敷地内にあり、3月には避難経路の確認を含めて訓練を実施する予定。市の一斉訓練は新型コロナウイルス感染予防のため中止になっている。感染状況を見ながら、地域の消防団との協力のもと訓練を検討する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの姿勢、声掛けの場所や声のトーン等配慮するように心がけている。 11月の尊厳についてのアンケートを実施し、対応の仕方を見直す機会を作った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声掛けをして本人の希望を確認しながら対応するように努めている。誕生会のケーキは選択できるように工夫している。 12月に聞き取り調査を実施。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	話をしながら対応している。仕事をしたい入居者があり、作業を分担できるように工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、整髪については声掛けで実施できるように努めている。施設からのクリスマスプレゼントを帽子にして楽しんでもらった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じた材料を使用し楽しみながら食事をしてもらっている。 毎日の生活の中で調理、食事に準備、片付けを入居者とスタッフは一緒に行っている。調理に携わることで手先を動かす記憶をたどりながら昔の日常に近い体験ができるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の変化と摂取量を栄養状態の指標として栄養管理に努めている。 食事摂取量が減った、食べられなくなった入居者に対しては管理栄養士と相談しながら栄養補助食品を取り入れたり、食事形態の工夫をしたりしている。1日の水分量を1000mlを目標に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態に、状況に応じて毎食後に声掛け、誘導、ケアを行っている。義歯の洗浄も毎回、洗浄してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状態に応じてトイレ誘導、見守り、介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の体調に合わせて体操、水分摂取量の調整や内服により排便コントロールができるように努めている。食事は、食物繊維を意識し野菜を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、入浴日を決めて対応している。声掛けして入浴を嫌がられた場合は、時間を変えたり、次の日に声掛けしたりして対応している。入居者の状態に合わせてリフト浴を活用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に応じて対応している。夜間の睡眠の状況を観察して、就寝時間を調整できるように声かけしている。19時頃に温かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は入居者の薬を入れているポーチに入れて作用について理解できるようにしている。薬の変更があった時には連絡ノートに活用し、注意が必要なことについてはコメントを記入し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて楽しみながら、役割を持てるように声掛けしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため外出行事が出来ていない。感染状況をみながら、声掛けしながら散歩、畑や草引きなど外に出れるように対応している。4月はたけのこ掘り、11月ひまわり畑に外出。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は家族管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族宛に書かれたハガキは渡している。家族から電話を掛けられる時に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に手作りのカレンダーや季節の飾りものを作成し飾るようにしている。いすを居間や多目的ホールに置き自由にくつろぎながらに座れる環境を提供できるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き一人でくつろげるよう工夫している。食堂のテーブルの配置、食席は状況に合わせて工夫するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物をもってきてもらえるよう説明し、タンスを持参されている方もある。物品の配置については本人と話をしながら整理をするようにしている。入居前に犬を飼っておられた方は家族が犬のぬいぐるみ持参され、それを抱えて寝られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室に手すりを設置している。トイレは分かりやすいように表示している。歩行車、杖等は使用しやすいように設置場所を定着するように工夫している。食事をする前には姿勢修正が出来るように必要な方には座面の工夫し、足台を使用している。		